

2. 資料調査

1. 既往調査によるカラスの生息状況

新潟市におけるカラスの生息状況や生態については、平成14・15年度に旧新潟市域を対象とした調査が実施されている。

- ・平成14年度 新潟市に生息するカラスの生息及び生態調査
- ・平成15年度 カラスの生息及び生態調査(秋冬期におけるカラスの生態調査)

これらの調査により新潟市(旧新潟市域)におけるカラスの生息状況については、以下のような概況が把握されている。

表2-1 新潟市に生息するカラス

		ハシブトガラス	ハシボソガラス	ミヤマガラス	コクマルガラス
特徴	鳴き声	カアカアと、澄んだ声で鳴く	ガアガアと、濁った声で鳴く	カララ・ガララと、しわがれた声で鳴く ※ハシボソガラスに近いが声量なし	キョキョ・キュキュ・キョン・キョンと、短く高い声で鳴く
	大きさ形態	全長：57cm	全長：50cm	全長：47cm ※ハシボソガラスよりやや小さい	全長：33cm／キジバト大 淡色型と暗色型がいるが、淡色型を成鳥、暗色型を幼鳥とする説もある。
	生息環境渡り	市街地、農耕地、山林、海岸、夏には高山帯などに生息する。本来は森林に生息する南方系の鳥。	農耕地、市街地、河原、海岸などに生息する。標高の高い山や森林には生息しない傾向がある。	冬鳥として西南日本を中心に渡来する。インド・東南アジアを除く、アジア大陸南部に生息・繁殖する。	冬鳥として九州を中心に西日本に渡来するが、個体数は少なく年によって変動がある。ミヤマガラスに混じて渡来する。
	食性	肉食よりの雑食性で動物の屍体や人間の残飯など何でも食べる。生ゴミ荒しをするのは、この種である。	草食よりの雑食性で主に果実や昆虫類などを採食する。クルミ割りをするカラスとして知られている。	食性については良く知られていないが、水生昆虫や昆虫類の幼虫、落穂、植物の実など。	食性については良く知られていない。
	生態	繁殖期は番で活動する。秋から冬にかけて数百羽から数千羽の大群となり、集団罫を形成する。	繁殖期は番で活動する。非繁殖期の昼間は単独か番で行動するが、夜には大群で集団罫を形成する。	群性が強く、数十羽から数百、数千羽にもなる大群で移動し、集団罫を形成する。	群性が強く、ミヤマガラスの群れに混じていることが多い。
季節による行動変化	1月			3月頃、大陸に渡去。	
	2月				
	3月	繁殖期番となって行動し、営巣・繁殖する。			
	4月				
	5月				
	6月				
	7月				
	8月	繁殖・育雛を終えると次第に群を形成するようになる。			
	9月				
	10月	秋から冬にかけて集団罫を形成する。		10月半ばに大陸より渡来し、越冬。集団で行動し、夜は集団罫を形成する。	
	11月				
	12月				

資料：平成14年度「新潟市に生息するカラスの生息及び生態調査(業務委託)報告書」

①カラスの種類

新潟市には、通年ハシブトガラスとハシボソガラスが生息するが、10月半ばを過ぎるとミヤマガラスが、少し遅れてコクマルガラスが大陸から渡来し、冬季には4種のカラスが生息する。ミヤマガラスとコクマルガラスは、翌年の3月には大陸に渡去する。

②ハシブトガラス・ハシボソガラスの生息数と生態

新潟市(旧新潟市域)におけるカラスの生息数は、ハシブトガラスが2,000～3,500羽、ハシボソガラスが1,500～2,500羽で、冬場に渡来するミヤマガラスは4,000羽程度と推定される。

【繁殖期】

ハシブトガラス・ハシボソガラスは2月～3月に営巣し始め、6月～7月に育雛を終える。ハシブトガラス・ハシボソガラス共に育雛期においては営巣地から離れることはない。

ハシブトガラスは主として生ゴミ・動物の死骸などを採餌している。ハシボソガラスは繁殖地である海岸林などで主に小鳥類の雛を採餌している。ハシボソガラスも生ゴミを漁ることがある。

【埒】

ハシブトガラス・ハシボソガラスは育雛期を過ぎると集団化を始め、夏埒(7・8月～10月半ば)と冬埒(10月半ば～3月初め)を持つ。

ハシボソガラスとハシブトガラス、ハシボソガラスとミヤマガラス、ミヤマガラスとコクマルガラスは混合するが、ハシブトガラスはミヤマガラス・コクマルガラスとは混合しない。

③ミヤマガラスの生息数と生態

ミヤマガラスは10月20日前後に渡来し、翌年の3月半ばには渡去する。新潟市内(旧新潟市域)においてはピーク時で概ね4,000±羽が生息する。

【埒】

渡来したミヤマガラスはハシボソガラス・ハシブトガラスの冬埒を埒とする。毎日、埒入り前には住宅街電線上などに集結する。

渡来するとハシボソガラスと群を作り、日中の行動・採餌まで集団行動をとるが、埒入り前の集結時にはハシボソガラスとは群れない。

【日周行動】

日中の行動・採餌・埒入りに至るまで群れで行動する。

採餌場所は田畑が中心で、積雪や天候に関係なく小集団ごとに一定の範囲を毎日移動して採食する。採餌の種類としては、タニシ、ミミズ、昆虫類の幼虫、落穂などが確認された。

なお、ミヤマガラスの生息数については、風間辰夫(未発表)の2008年11月～2009年3月の調査では、新潟大学構内を埒とする群が6,000～7,000羽と推定されており、近年増加の傾向にあるようである。

また日周行動については、山本未来(2009年度新潟大学農学部卒業論文)によれば、ミヤマガラスは埒から出てから戻るまでのほとんどの時間(70%)を水田での餌の探索・採食に費すことや、終日一定の地区に留まり、あまり移動しないことが指摘されている。また糞による食性分析の結果、糞の内容物の出現頻度はモミガラ100%、小石42%、ウルシ科(の種?)18%、イネ14%などとなっており、水田における二番穂や落穂がミヤマガラスの越冬食料として重要であるとしている。

2. 市民情報によるカラスの生息分布

新潟市に寄せられる保護・苦情の記録について平成17年度～平成21年度の5ケ年分を整理した(図2-1)。

各年度58～89件の情報が寄せられているが、その80%が繁殖期(3月～7月)のものである(表2-2、図2-2)。情報を行政区別・時期別(内容別)に比較してみると、多くが中央区など市街地中心部からのもので、また営巣、巣からの落下、威嚇など繁殖行動に関するものが多数を占めている(表2-3、図2-3)。

非繁殖期では大群や衛生被害(糞害)に対する苦情が寄せられており、特に西海岸や青山海岸林、新潟大学付近では大群についての情報が多い。

表2-2 新潟市におけるカラスに関する保護依頼・苦情等件数

	H17(2005)	H18(2006)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	計	割合
4月	11	10	9	9	25	64	17.3%
5月	22	16	19	11	20	88	23.8%
6月	16	22	20	15	13	86	23.2%
7月	8	9	9	9	6	41	11.1%
8月	1	3	2	2	1	9	2.4%
9月	2	2	2	5	3	14	3.8%
10月	2	1	2			5	1.4%
11月	2	3	1		3	9	2.4%
12月	1	0	5	2	1	9	2.4%
1月	2	3	8	2	1	16	4.3%
2月	2	1	8	1		12	3.2%
3月	8	2	4	2	1	17	4.6%
計	77	72	89	58	74	370	100.0%

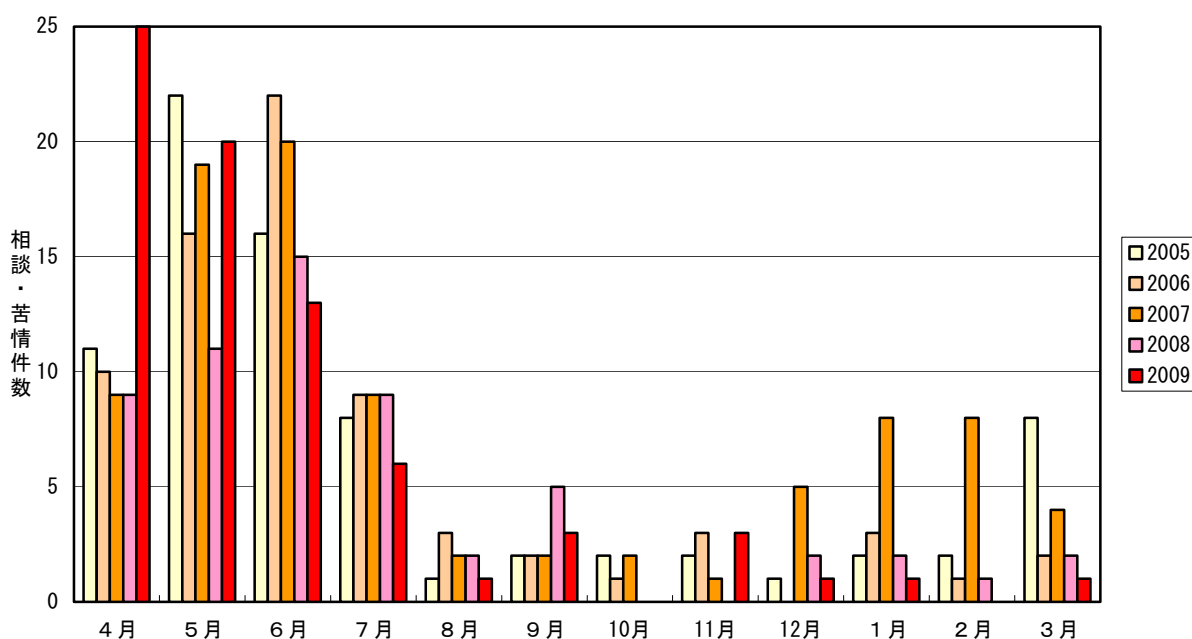


図2-2 カラスに関する保護依頼・苦情等件数(月別集計)



図2-1 カラスに関する情報・苦情

表2-3 行政区別・時期別にみたカラスに関する保護依頼・苦情等件数

年度	内容	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	不明	合計
H17 (2005)	繁殖期	4	5	21		1		2		7	33
	越冬期			2				5			7
	その他		9	5		3		4	2	7	30
H18 (2006)	繁殖期		8	20			1	7	2	5	38
	越冬期			1				1			2
	その他		3	11			3	4	2	5	23
H19 (2007)	繁殖期		4	27				2		1	33
	越冬期			13	1						14
	その他	12	3	7			8	1	10		41
H20 (2008)	繁殖期		1	12	1		1	3			18
	越冬期			2							2
	その他			16			15	7			38
H21 (2009)	繁殖期		5	26			3	3	4		41
	越冬期			1				1			2
	その他			15	2	2	5	5	3		32
5年間 計	繁殖期	4	23	106	1	1	5	17	6	13	163
	越冬期	0	0	19	1	0	0	7	0	0	27
	その他	12	15	54	2	5	31	21	17	12	157
計		16	38	179	4	6	36	45	23	25	354

繁殖期：営巣、雛、威嚇
 越冬期：大群
 その他：死亡、傷病、糞害、農作物被害

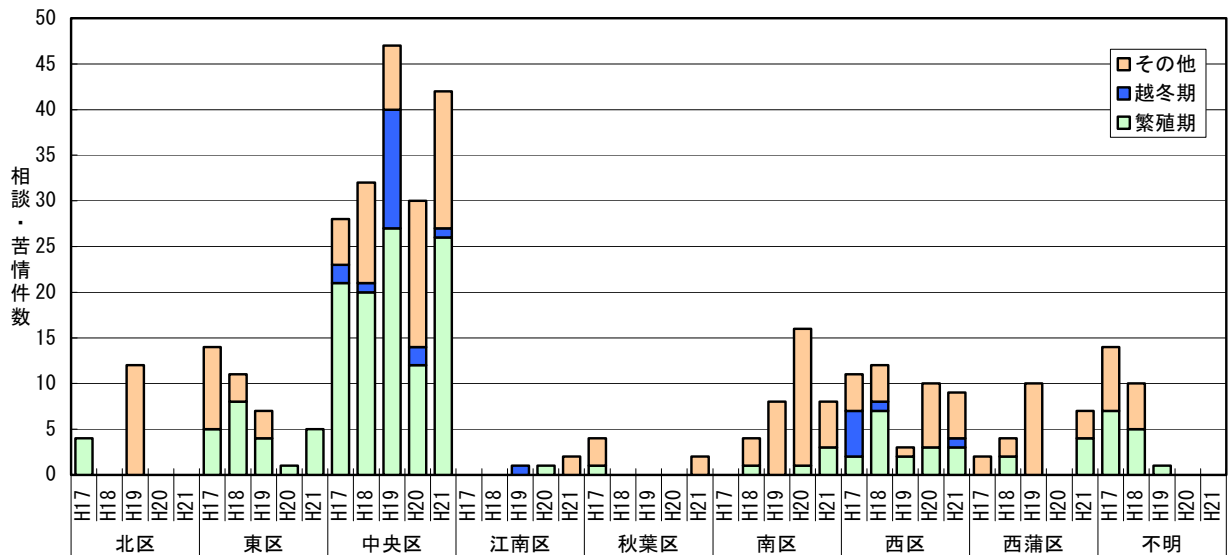


図2-3 カラスに関する保護依頼・苦情等件数の比較(行政区別・時期別)

3. 電柱への営巣分布

繁殖期には電柱へのカラスの営巣が多く、電力会社ではその除去に追われるということであるので、東北電力株式会社新潟営業所・新津営業所・新発田営業所のご協力をいただき、平成21年3月～6月の電柱にかけられた巣の除去の記録をみせていただいた。電柱にかけられた巣の除去は、路線保守の上で必要な作業であるので、市民情報よりは客観的な分布情報といえる。

新潟市域における年間(3月～6月)の除去件数は1,000件近くにも及んでいる。路線名をたよりに分布を示したが、延長の長い路線もあり、その位置精度は概略的である(図2-4)。

全体的には、電線網が張りめぐらされている市街地・住宅地に一様に分布しているが、榎谷小路から下町一帯の中心市街地、新潟駅周辺、西区の大堀幹線沿いの住宅地、新津市街地などで営巣分布が多いようである。

東北電力(株)新潟営業所の保守担当部署の話では、砂丘より海側の区域の電柱にはあまり営巣しないということであった。他に営巣に適した樹林があること、強い風衝にさらされること、餌場となるゴミ集積場が少ないことなどが影響しているのかもしれない。

なお、電柱への営巣除去の記録からは、除去作業を行っても同じ電柱に繰り返し巣づくりを行うことが多いことがわかる。多い場合は4・5回も繰り返した例がみられる。また繰り返し営巣の比率は繁殖期の前半ほど高く、繁殖後期には、除去された隣の電柱に巣づくりをする比率が高くなる傾向がみられる(図2-5)。

このことは、繁殖期には番ごとに一定のテリトリーを形成し、そのテリトリー内で繁殖するしかない(他所に移れない)ことを反映しているためと考えられる。

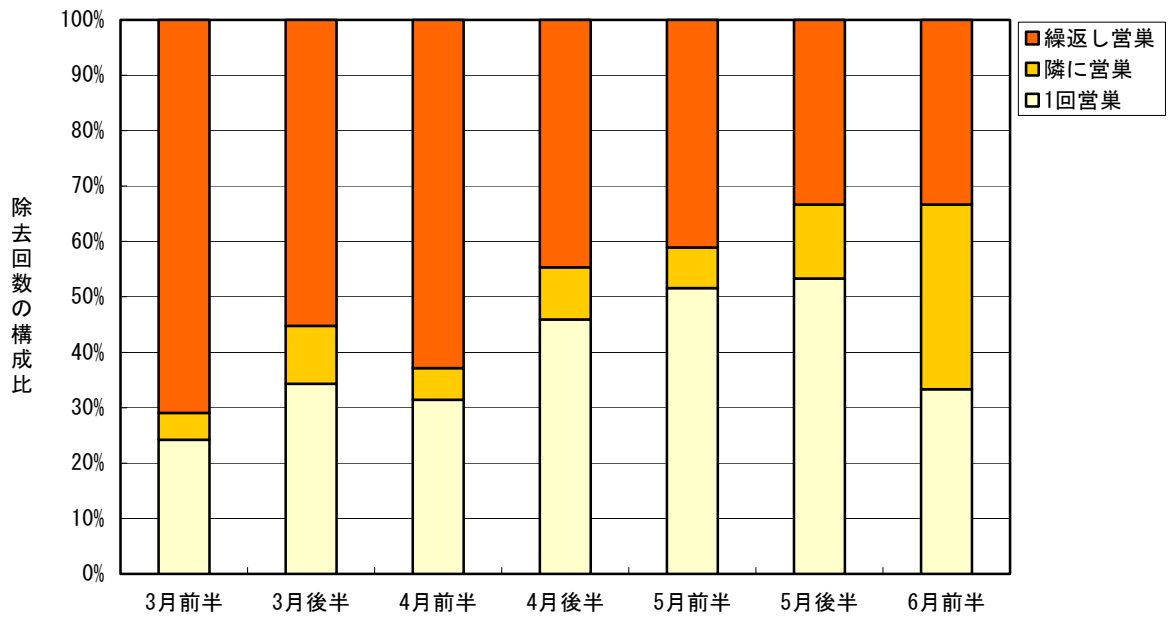
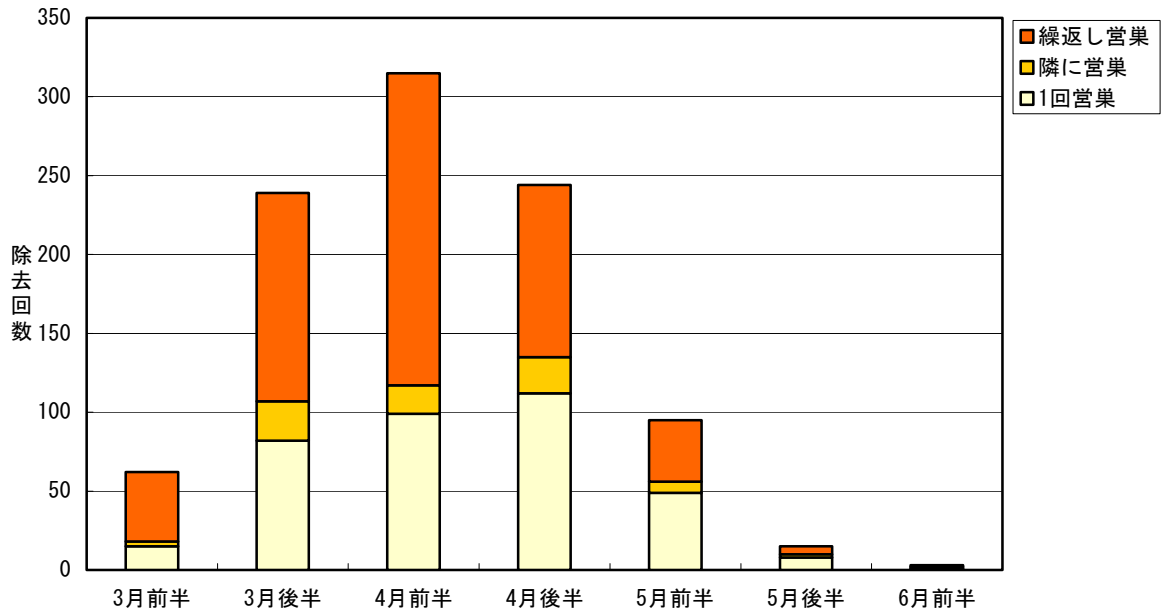
表2-4 新潟市域において電柱にかけられたカラスの巣の除去件数

	3月前半	3月後半	4月前半	4月後半	5月前半	5月後半	6月前半	合計
1回営巣	15	82	99	112	49	8	1	366
隣に営巣	3	25	18	23	7	2	1	79
繰返し営巣	44	132	198	109	39	5	1	528
計	62	239	315	244	95	15	3	973

資料：東北電力株式会社、平成21年3月～6月の記録

電柱にかけられた巣はすぐさま除去されてしまうため、ここで繁殖する事例はほとんどないものと考えられるが、樹林や樹木に限らず、市街地の電柱のような構造物についても頻繁に営巣行動が試みられることは留意すべきことであろう。





資料：東北電力株式会社、平成21年3月～6月の記録

図2-5 電柱にかけられた巣の除去回数